

21/1/23 名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会 港文化小劇場 質疑応答部分
(名古屋市民オンブズマンによる文字起こし)

水野： ライターの水野と申します。中日新聞のウェブの方で少しお城の記事を書かせていただいています。3つだけ質問させていただきます。座ったままで失礼します。

まず事務方の方へ、民間ではこうした事業をする場合は仕入れ外注費、また人件費といった経費を使う計算して事業が成り立つかどうかをやると思います。これですとですね、機材を買ったとかいうのは仕入れでしょうね、竹中さんに支払いの外注費ですね。今日説明会にたくさん人が人件費かかっていると思うんですけど、こう言った部分が人件費。こういったものも含めて、今日まで事業が始まってからですね、今日までいったいいくら払ったのか、ということが大変知りたいです。人件費もいれてです。わかればそれも含めて頂きたいですけど、なければ分からないで今日は結構ですし、あとは文書でお願いしたいと思います。

2点目はですねこれは市長に伺いたいのですが、平成27年8月24日付けて「全責任はわしがとる」という文章が出ているようでございます。この事業を進めるというのは指示されていましたが、もし今度選挙に出られず、その場合ですね、この事業はどうなってしまう？市長が出られない場合。

それで、もし今まで払った費用はいくらかかったのかと聞いていると思うんですけど、そのお金は市長が払われるのか？全責任をとるということであれば。それとも、いわゆる税金、我々が払った税金で賄っておしまいということになるのか？中止になったらですね。

最後に竹中さんに伺います。木造の天守建て替えは文化庁のですね、復元、つまり「整備と整備に関する基準」をどういうふうに、規模と意匠を史実に再現するというのを復元と言ってます。

また復元的整備というのは復元的整備という別の言い方をしておりますて、これですと意匠を一部変更して再現する、というようなことで規定しています。

これに従っていけば、今回寸分違わぬお城というのは復元にあたると思います。復元に当たった場合ですね、現在の基準に沿う耐震耐火、バリアフリー、こう言ったものまでが性能として得られないと思うのですね。ということですね、今構造を考えて対応されていると思うのですが、素人にもわかるように教えていただきたい。恐らく復元をしようとしていると思いますが、どうやって対応するのか。以上3点をお願いします。

林：ありがとうございます。今のは、いままでいったいいくらかかったのでしょうかという事と、それから市長が全責任を取るとおっしゃいましたが、選挙出られなかったらどうなるのでしょうか？経費はどうなるのか？と、それから最後に復元ということとバリアフリーとか、耐震耐火は基準に合わないんじゃないの？そこら辺はどういう風に検討してらっしゃるのでしょうかというご質問でよろしいですね。じゃあ1番目の経費について

名古屋城： 経費の方のお話でございますけれども、これまで人件費等がいろいろかかって

いる状況がございますが、28年度から令和元年度までの決算の支出の決算報告の合計でございますが、合計しますと69億6800万円余ということになってございます。

河村：それでは、とにかく中止には絶対ならないように文化庁とも非常に丁寧に打ち合わせをやっております。実際やっております。まあそういうことです。絶対ならんようになりませんというのはあれですけども、ならんようにやっておると。

水野：出馬しなくてもですか？

河村：市長というのは任期がありまして、いろんなことを申し上げましたがですね、任期ごとにあれ、あのいったん切れるんですよ全部。民主主義というのは。議員もそうですけど。一旦全部辞めるんですわ実は。なんか家業化しておりますとお前しょっちゅうでてくるで継続がしているように見えますけど。政治というのはそこが非常に民主主義の重要なところ。これ。王様と違うところ。任期制でやめますので、引き継がれていく、ということでございます。

林：ありがとうございます。それでは3つ目の竹中工務店さん

竹中：今仰られた復元整備の件でございます。

あのおっしゃられる通り、文化庁の方からですね復元基準ということで出されておりました、規模、構造、形式等はですね往時、名古屋城でいいますと歴史的な根拠をですね位置づけている時代背景の中の資料がきちっとあるかどうかということですね、整理したうえで当然、これは文化庁さんとのですね協議の中で、確認を取っていくという行為になります。復元する歴史的建造物の当然そのパースのですねきちっと当時から天守があったかどうか、位置はどうだったか構造はどうであったか、そういった諸々のですね情報をきちんと整理していくと

あの冒頭、河村市長からお話しがあったように名古屋城というのは非常に史実に史実資料がたくさんあります…。

水野：そういうことではなく、復元なのか、復元的整備なのか、どちらなのですか？

竹中：これは復元的整備です。

水野：復元的整備なんですか？

竹中：あごめんなさい、復元整備です。

水野：復元というのは、さっきいったように耐震対策ができないわけなんですよ。

竹中：いや、そこはですね、あの復元整備でありましても、当然最終的には特定行政庁のですね建築審査会を経て、安全性、避難防災、耐震性といったものをですねパッケージにして許可を頂くことになりますから

水野：そうするとそれは復元的整備ということに文化庁の規定ではなるんですよね。

林：じゃあちょっと補足説明を

荒井：名古屋城総合事務所の荒井です。

少しちょっと補足させていただきますが、文化庁が定めています「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」というのがもともと平成27年に出来たものが、今年度令和2年4月1日に復元的整備ということに対しまして追記されるような形で出ております。

その中に復元と、あと復元的整備という2本がありまして、我々は名古屋城天守閣につきましては歴史的資料が豊富にあるということもありますので、復元というものを目指しております。

ただ、文化庁が定めるその基準の中にはですね、ちょっと読み上げさせていただきますと、その一部分なんですが「歴史的建造物の構造及び設置後の管理の観点から、防災上の安全性を確保すること」ということがありますので、我々としましては史実に忠実な復元というのを目指すんですけれども、当然その安全面、人命の安全というものを確保しながら、整備をしていくというのは文化庁の定めにある通りに従いまして設置していくことを考えておりますので、当然その中に構造補強であったり、防災上避難設備、そういったものを設置するということを含めまして、文化庁と協議してこの復元を進めていくというふうに考えておりますのでご理解を賜りたいと存じます。

水野：そうすると、このお城には補強は入っているという事ですね。

荒井：おっしゃるとおりでございます。

水野：竹中さんもそういうことですね

竹中：その通りでございます。

水野：史実に忠実ではないわけですよね？

竹中：文化庁さんのですね、たしか基準の中でも、100%ですね、その復元基準に準じて

るということは言及されていないと思うですよ。

やはりそのときにやはりあの文化財の活用という観点から、やはりあの活用するための安全性とかですね、そういったものをしっかりと確立しながら復元をですね、実施するようにというふうに理解しております、そういう思いで進めさせて頂いております。

林：ありがとうございます。

河村：わしからちょっと。あの冒頭で言いましたように、石の文化と木の文化ではやっぱり違うんですね。文化庁 木だとなってしまうんですね。春日大社なんかも20年毎に全部作り変えます。でも国宝なんです。じゃなんなのかというところ

3つ要件がありまして、そのあった同じ真上に造ること、それから資料等が残っているそれから材料についてもできる限り 日本は木ですから燃えてしまいますので、法隆寺だと65% 朽ちていく1300年前のものでですけど、

木の文化というのは、だから3つの要件を立てればそれは本物なんだ。ギリシャのペルセポリスが残るとありますよね、石の。ああいう残っているのと同じように見なすんだ、ということ宣言した。奈良ドクトリンという事で木の文化にとって特徴的な考え方です。ええ考え方だと思います。

林：ありがとうございます。次の方はどうでしょうか。あつすみませんちょっとお待ち下さい。その前にバリアフリーのことですね。

森本： 復元とバリアフリーの関係ですけれども、やはり文化庁の「復元等に関する基準」の中では、特に史跡等における歴史的建造物でバリアフリーのことが文言としては出てきていないところです。これに対してですね、本市としては今日の資料の資料編のですね、11番のところ、バリアフリーの検討というところで、付加設備の方針の抜粋ですけれども掲載させて頂いております。

障害のある人もない人もできるだけ同じように観覧できることが大切ですので、この整備の考え方として史実に忠実な復元とバリアフリーの両立とさせて頂いております。

通常のエレベーターは設置しない方針を掲げておりますので、木造復元天守の柱や梁を変更せずに昇降可能な付加設備を導入する所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

林：ありがとうございます。では先程手をあげていらっしゃった、はいこちらどうぞ

内田： 東区から来た内田と申します。

まず、新型コロナウイルス緊急事態宣言下で市民向け説明会が強行されたことに対して強く抗議致します。

どうして市民向け説明会自体をオンラインで開催出来なかったのか。質疑応答を含めたオン

ライン説明会を大阪市は実施しましたし、横浜市も開催予定です。

質疑応答も含めてオンラインで行えば、もっと多くの市民に安全に木造復元事業の現状を知らせることができたのではないかと思います、非常に残念です。

名古屋市が「オンライン説明会」と称する徳川家康の説明も見ましたが、一方的に説明するだけで市民の疑問には全く答えていません。

さて、市から木造復元事業に関する説明がありましたが、現状どうなっているか理解することが出来ませんでした。

特に、現状変更許可申請を提出する先の文化庁がどのような意見を持っているのかについては、全く述べられていませんでした。

そこで、市職員が文化庁訪問時の復命書を情報公開請求したところ、2020年11月4日、すでに「天守閣整備事業 基本構想（案）」を文化庁に示していたことが判明しました。中身を拡大しました。これです。すべて内容が黒塗りで、なにが書いてあるかさっぱりわかりません。皆さん、読めますか？

「現天守閣解体申請にかかる文化庁からの指摘事項に対する市の考え方」について記載があるようですが、全くわかりません。木造復元の意義まで黒塗りとはどういうことでしょうか。唯一「天守の整備方針は木造復元」という文字のみ読めます。

さらに、RC天守閣と木造天守の比較衡量もされていましたが、これも黒塗りです。

これでは、市民は何に賛成しているのか、何に反対しているのかすらわかりません。

黒塗りの理由は「市の機関内部における検討に関する情報のため」とありますが、すでに昨年度末までに木材等69億6800万円余り支払い済みです。

このように市民へ情報を隠しておきながら「市民への機運醸成」とはあきれかえります。

名古屋市は新型コロナウイルス対策で大変頑張っていると伺っています。

新型コロナウイルス対策のため、行政にしか出来ないことに対して予算をつけていただきたいのですが、まさに不要不急の名古屋城木造復元事業に対し、市民への説明も全く行わずに今やるべきとは思えません。

質問は2点。1つ目 オンラインでの説明会、特に質疑応答の配信の予定について

2点目 基本構想（案）を市民に公開して議論するつもりはあるのか、伺います。

以上2点お願いします。

林：はいありがとうございます。では1つ目、オンライン質疑、はいお願いします。

名古屋市：はい、それではですね、まずコロナ禍の状況下の中で開催させていただいた考え方からまず説明させて頂きたいと思います。私どもといたしましても、今非常事態宣言の対象地域となっており、市民の皆様も不安を抱えて大変な状況であるということは認識しております。一方ですね、名古屋城木造天守閣復元事業、こちらですね、大きな予算とですね、

時間を要する本市のビックプロジェクトでございまして、この説明会はその進捗状況等を直接市民の皆様にご説明できる大切な機会のある場であるといったそういった認識でおります。

私どもと致しましては、この説明会は、まず飲食に繋がる人の流れを促すものではないという事。あと催し物開催にあたっての目安を超えていないということ、あとガイドラインに基づく感染症対策を実施すること、あとご不便をお掛けいたしますが、会場数を縮小させて頂き、外出に不安を覚える方のためにオンライン説明会といったことを実施するといったことで、総合的に判断いたしまして開催をさせていただくことをさせていただいております。オンラインでのですね、質疑といったようなことではございますが、今回はですね、説明資料を流させていただきます、そちらの方ではですね、アンケートフォームも設けておりますので、見ていただいてアンケートの方でご意見、ご質問があればこちらの方にいただいて、そちらに回答させていただくというような形で行わせていただきたいと思いますというふうに考えております。宜しくお願い致します。

内田： 質疑応答の配信予定はありますか？

名古屋城： 現在はありません。

林： ありがとうございます。では2つ目のですが、基本構想の公開についてお願いします。

名古屋城： 公開請求頂きました文化庁との打合せに使用した資料につきましては現在、検討中の段階のものでございまして、今後も十分な意見交換を必要とするものであります。公開を前提とされる場合は、今後の率直な意見交換で、多様で自由な議論の妨げになることも十分に考えられますので、情報公開条例に基づき資料の一部を非公開とさせていただきました。内容の精査検討を進めまして、必要な時期が来れば地元の有識者会議、これは公開でございますので、そこでご議論頂く予定しておりますのでご理解いただきたいと思います。

内田： 市民に公開するのは？

名古屋城： その、有識者会議の資料等については、議事録についても HP で公開しておりますのでそれを以て公開させて頂きたいと考えております。

森： 市民向けに公開はしないのか

名古屋城： 市民向けと言いますと、HP の方で出させて頂いております。

森： 資料自体はないですね。

名古屋城：資料も出させて頂いております。

森：全てではないですよ

林：ちょっと、

名古屋城：ちょっと補足させていただきます。あの文化庁からの指摘事項につきましては今私ども有識者会議、まず全体整備検討会議にかけて、それから部会に下ろしてまた全体会議に戻して決定する、そういう手続きを踏んでいます。

ですので、そこにかけるまでは事前の相談の段階でございますけど、会議にかける段階ですべて公開をしております。で、有識者会議の資料につきましても会議開催後 2-3 日後にはきちんとウェブサイトの方に資料は公開しておりますのでご理解いただければと考えております。

林：ありがとうございます。では次の方いらっしゃいますか、ではそちらの前の方、後ろの方、グレーのジャケットの方

西浦： 南区の西浦と言います。昨日も質問させて頂きましたが。

林：いえいえどうぞどうぞ

西浦：文化庁の質問というか、なんていうか、なんていったっけ、文化庁の指摘事項を踏まえて名古屋市が今検討している事は分かったのだけど、その中で発掘調査とか、いうこともあるんだけど、それで5年、3年前から名古屋城の木造の復元というか、とても怪しくなっていますが。資料の6ページ、基本設計の業務の内容と書いてあるんですが、基本設計業務が終わっているわけですよ、お金が払われていますし。

林：市民向け説明会の冊子の

西浦：資料の6ページ。基本設計業務は終わってますね。で、実施設計の中でなんかできていないところを説明していくということをおっしゃっていたような気がしますけれども、どこまでどこができているのか。

それからもう一つは名古屋市の文化庁からの指摘事項に対して検討していく。木造改築だけが目的なのかどうかということについて、有識者会議でなにも議題になっていないよね。有識者会議の資料があるけれど議題には出てないね。この間。去年やっている石垣部会でも天守閣部会でもそういう話は出ていない。他の話でしょ？

御殿どうするかとか庭園どうするかって話でしょ？お城の設計そのものの話は何も出

ていないんですよ。でやるやると言っているけれども、片一方で全体の姿が見えない。

市民オンブズマンの資料請求での黒塗りだと。今協議中だから出せませんと仰る。

一貫して名古屋市はどういうお城ができるのか、一番最初にビデオ観せて貰っただけで、もうずーっと出来ない。そこをどうやって説明していただけるのか？

今、お城の設計はどこまでどうなっているのか？それを明確にして頂きたい。

このままだとどうなっていくのか分からない。お金だって無駄に使われていく、それから人材も無駄に使われる。たくさんの観光文化交流局の有能なスタッフが時間を使ってお金もね、無駄になります。この辺を明確にして頂きたいと思います。

林：はいありがとうございます。えっと、基本設計業務がどこまで進んでいるかというご質問でした。

西浦：実施設計業務も含めて

林：実施設計業務も含めてどうなっているかという質問でした。

西浦：基本設計すら発表されていないわけです。黒塗りです。

林：じゃあよろしいですか

名古屋城：設計業務ということで説明させていただきますと、

まず基本設計は平成29年5月に竹中工務店と基本協定を結びました。

それと同日基本設計業務の契約をしております。基本設計業務は平成29年度に終えております。平成30年度からは実施設計を始めておりまして、今も続けている状況でございます。

基本設計はですね、基本的には実施設計前にやる、の段階でやる業務で、基本的な計画を策定するというものでなっております。それ以降実施設計につきましては、実際に工事をするための詳細な設計、あるいは基本設計の成果を元に作成していくというものでございます。で今お話ありましたように平成29年、30年、31年、で今年令和2年ということになりますが、その間平成29年、30年度位に関しては天守閣部会だとかあるいは全体整備検討会議でその仕様について有識者にお諮りしているのは、かなりの数をこなしてはおります。ただ、今現在、その部分がですね、あの一部継続して調査あるいはあの仕様を決めるような作業は続けておりますが、まだ有識者にお諮りする段階ではないという状況ではございます。なのでそういったことで実施設計は続いているということです。

あと実施設計に一番大きなところとしまして、基礎構造の検討というのをこの昨年9月10月にですね全体整備検討会議というものの中で「調整会議というものを開いて検討を進めていく」というようなことで方針を決めて頂くということが出来ましたので、今後基礎構

造についてより詳細に検討を進めていくと言う事をしていく、それと併せまして、今実施設計が当然完成していくということになるかなど。

当然バリアフリーの関係もありますし、防災設備、構造補強そういったものもより詳細に詰めていくという事が今後いくかなあということで今現在進めている状況でございます。

林：ありがとうございます。

西浦：それでね、6ページに、文化庁への対応というところで検討整備というのがあって「現天守閣の解体の理由が耐震対策のみか木造天守の復元のためかの検討等整理」って書いてありますよね。整理をする、木造復元のためか、地震対策なのか。それを検討整備するって書いてあります。事実どこまで行われているか。でそうするともういっぺん基本設計から見直す必要が出てくるかなあという気がするんですが、基本設計どうなってんの？基本設計位は今発表してもよいのではないか。未だに出ないのはおかしいと思うんですね。で木造天守の復元に関わる計画の具体的内容の追加請求とは一体どういう事なのかね？文化庁の回答に答える形で文化庁とすり合わせをするということなのですか？

名古屋城：お尋ねのありました、現天守閣解体の理由は耐震対策のみか木造復元するためかという、こちらにつきましては昨日も紹介させて頂いたんですけども、現天守閣につきましては老朽化ですとか、耐震性能不足もありますし、現在のいわゆる博物館機能としても現在の博物館としては不足しているといったところも含めまして、名古屋市としては木造復元で考えております。ですので現天守閣解体ということにつきまして、理由については木造天守の復元ということになってまいります。で木造天守の復元ということになってまいりますので、その具体的な内容の追加提出につきましては、今それを基本構想というような形で、先程のご質問のありました情報公開請求を受けたそういった資料の中で整理をしておりますので、こちらにつきましてはまた時期が来れば有識者会議に諮って、というふうに考えております。

西浦：基本構想について

林：すみません、この話しどんどん進んで行くんですけど、他の方がもしかしたらご質問があったりするとその方のご質問の時間がなくなっちゃうので、これで打ち切らせて頂きます。で、私が不手際で、昨日ご質問された方にまた当てちゃって申し訳なかったなと思ってるんですが、できれば今日はじめて質問するっていう方に手をあげていただけると

西浦：趣旨はわかっています。

林：すみません、よろしく願いいたします。じゃあ、お願いします。

市民：先ほどですね、すでに購入された材木が2200本あると言われたのですが、この先いつそれが使用されるのか正直なところ不明だと思うんですね。

それまでの保管費用、材木の保管費用。これは当初の全ての予算が確か505億と聞いていたと思うんですが、その中に含まれているかどうかというのがまず聞きたいです。第1点。

それから、北側の孕み出し部分の、あの部分の改修は必要なのかどうかという事。それから順番として石垣の改修が先なのか、上の木造天守閣の復元が先なのかの順番の問題。

それから、き損箇所があったあの展示施設のオープンはいつ予定されているのかという事。それから、き損事故が発生してそのあと先程いわれたが真摯に反省とありましたが、昨年秋の各社新聞を見ておりますと、また天守閣から石垣が落下して、その報告が文化庁に遅れて先生方からまたきつく怒られたという記事が載っておりました。

あの市の職員さんは、特に所長さん始め皆さんが本当に真摯に反省しているのかということ自体が疑問に思う訳ですよ、こういうことが度重なるとね、やっぱり、これは失礼ですが、職員さんのまず基本的なモラルの問題だと思うんですね、これについてお伺いをいたします。

それから跳ね出し架構。天守閣が乗っている下の石垣のある地下の部分です、あの部分なんですけど、あの部分について石垣部会の先生方から詳細に云々というね、もう一回調査しろという話が出ているという話しを新聞報道で読みました。ところがあの部分は昭和34年に今の天守閣が建った時にすでに改変されているんです。改変されているんです。昔のものじゃないんです。ある意味、ある意味。昔のものでないから、名古屋市がやろうしているものをやればいい筈なんですけど、先生方はどうしてそこをもう一度調査せいと仰っているのかちょっと甚だ疑問に思います。それだけ、以上です。

林：はいありがとうございます。ちょっとあまりにもたくさんあって、ごめんなさいもう一回整理をさせていただきます。

1つ目がえっと、木材の保管費用というのは当初の予算に含まれているのか？ということですね。

2つ目が北側の孕み出しの修復が必要なのか？はい

3つ目が

市民：石垣の改修が先なのか木造復元が先なのか

林：はい、わかりました。ありがとうございます。

それから切り出しの部分の天守とその関係の部分と、もう一つ天守閣のなんか順番とおっしゃっていましたが、それはもうこちらでわかっているらっしゃるそうです。

あとは跳ね出しの部分ですね。じゃあ最初に

名古屋城：木材の 2000 本近くも調達しているものに対して保管料がかかっているという事ですが、元々ですね、2022 年 12 月に完成させるという事を含めて木材を調達をしあげていたところであります。元々工程に沿って調達しないと調達できなくなる可能性があるということで調達をしてきているんですけれども、その保管料は現在かかっています。

ただ木材はですね、我々が使おうとしている木材は非常に径も大きくて長いということもあって乾燥するのに時間がかかる、まあそういうところもありまして、元々ある程度の数字、料の木材を機械乾燥しようとしていたんですね。当然そこにも費用がかかるという状況ではございます。

で今回、保管期間が延びるという事が有る、その期間をですね、自然乾燥の期間にあてがうことができる。まあ自然乾燥というのは、保管料はかかるんですけど、機械乾燥費というのがなくなりますので、そういったところで費用が負担が増えていることはありません。なので今現在は 505 億円の中で収まっている。元々の木材の金額内で収まっている。

ただそれもやっぱり限界というか機械乾燥費というのも元々見込んでいる金額が限界がありますので、それよりやっぱりオーバーしちゃうということが当然出てきますので、その部分につきましては、今竹中工務店とも、まあ協議をしておりますけれども、出来るだけ追加にならないような工夫をしていきたいというふうに考えているところです。

林：ありがとうございます。北側のはい、

村木：続きまして、北側の天守台石垣北側の孕み出しについてお答えさせていただきます。

先ほどの話で北側の孕み出しにつきましてはまだこれまでやった調査だけでは十分な検討が、判断ができないというような形をいただいておりますので、今回北側孕み出しにつきまして追加調査をしたところでございます。

ですのでそういった追加の調査の結果を、私ども取りまとめをいたしまして有識者にお諮りした上で、そちらがどういった処置が必要なのかというところを検討して参りたいというふうに考えているところでございます。こちらにつきましてはこの現状の把握をしたうえでですね、どういった対応をしていくかというところを含めてまいりたいというふうに考えておりますので、現在の時点で積み替えという作業が必要であるかどうかというのはまだ判断ができておらないところでございます。

で、そういった作業の内容によりまして、天守の整備と石垣のというところは検討が必要かなというように考えておるところでございます。あの当初の計画としては、天守、石垣という順序という計画ではありましたが、内容によっては天守の工事に先立って応急的であれば継続的に対応していくという必要があらうかというふうには考えているところでございます。

併せまして、ちょっと先ほど質問頂いた天守のレーダー探査しておりましたときに石垣が落下してしまったでありますとかあるいはマニュアルに沿ったものというところで注意が不十分ではないかご指摘頂きました。その点につきましては、私どもといたしましては 6

月に決めました再発防止対策に乗っかって対応しておったところでございますけれども、まあ事故としては不可抗力として起きたという認識ではございますけれども、その毀損届け提出、出す準備をしたものが所定の期間内に出せなかったということ。そちらの単純、端的に私どもの事務上の処理が不適切であったというところで大変反省しているところでございます。申し訳ありませんでした。

林：はいありがとうございます。はい

鈴木：保存整備室の鈴木でございます。私ども保存整備室が発注しました整備工事の途中でですね、江戸時代の米蔵の基礎にあたる部分の石の列を破損してしまう、毀損してしまうというようなこのような事故をですね、私ども管理団体自らが引き起こしてしまった。これに関しましては誠に申し訳なく思っている次第でございます。このような事故を二度と起こさないために、事故後には徹底的に原因を分析いたしまして、再発を防止するための対策を策定し、昨年6月の26日に文化庁の方へ提出をさせていただきました。今後ですね、この対策を整備に携わる職員全員が徹底しまして、史跡保護に対する意識を一層高め、慎重にも慎重に整備事業を行ってまいりよう真摯に努めて参ろうというふうに考えてございます。

お尋ねを頂きました展示収蔵施設の開館についてでございますが、現在棄損してしまいました石の列の修復も進んでおりまして、併せて文化庁の方から工事再開の許可をいただきましたものですから、今後工事を再開致しまして、まあ春ごろを目処にはオープンできる状態には、設備的にはオープンできる状態にはさせていただきたいと。1日も早く皆様にご覧いただきたいという風には考えておりますが、具体的なオープンの日についてはまだ定まっておきませんので、ご容赦頂きたいと思っております。以上でございます。

林：ありがとうございます。最後にはね出し架構についてですね。スライドがでるそうです。

名古屋城： 跳ね出し架構と我々がお話させていただいておるところなんです、実は平成27年にあのまあ、天守閣整備事業のプロポーザル、いわゆる企画提案ということで、技術提案書を竹中工務店の方から頂いておりまして、その中に載っている基礎構造の、基礎の形をはね出し架構というふうに呼びます。

このスライドにあげさせて頂きましたが、これが左側が今の現天守閣の基礎部分の断面図ですね。外部の石垣があって、穴蔵部分、まあ地下部分を穴蔵部分と言いますが、中の穴蔵部分の石垣というのがあるんです。

今RCの、SRCの構造なんで石垣に荷重がかかっていないというようなかたちなんです、右側ですね、これがいわゆる赤い部分がはね出し基礎というふうに我々が呼んでるものでして、この基礎はですね、実はこの天守台の石垣を構成しているものというのは表面の石垣、まあ外部の石垣だけではなく、この中には栗石というものがあまして、更に中には盛り土というものがあります。それを全体を一体で石垣というものでして、いわゆる天守台

を構成しておるものになります。

その部分にこの跳ね出しの基礎を入れるということで、実はこのはね出しの基礎を入れることによって、中のですね、木造復元自体は史実に忠実に復元をしたいということを検討した基礎ではありますので、それは技術提案の中に載っている事であります。

ただまあ石垣部会の方から、あるいは有識者からも石垣の中に、要は天守台の石垣を構成する中にこの構造材を入れるということ、これは実は、先ほど仰ったように戦後現天守を再建する時にかなりの石垣を触っているのは事実です。ただ根石部分、いわゆる地下部分をさわっているのかどうかはわからないだとか、あるいは本当に全部さわったのかどうかということも含めてしっかりと調査をしないといけない。

ましてやこの石垣、先ほど説明させて頂きましたように、石垣、表面の石だけではなく、中の栗石、盛り土そういったものも含めて大事なものであるということを言われておりますので、その中にこういう基礎を入れる事自体が簡単にいいよと言えるもんじゃありませんよねということで、しっかりと調査をしてくださいということをお願いしております。

併せて、文化庁からも「中の遺構をもし元々江戸時代から残っているものであるとするなら、そこはやっぱり残すということを前提として考えてください」という風に言われておりますので、やはりしっかりと調査したうえで我々も次の検討に入らなきゃいけないということです。

更にこれを入れると言うことになると、穴蔵石垣を全部外すということにもなりますので、併せて、ここの中にもものを入れるということと、穴蔵石垣を全部取り出すと言う事はやっぱり今すぐいいよとはいえないので、しっかりと調査をして下さいというふうに言われていることをございます。

我々ももう調査、今までしてきた調査、あるいは今後する調査、それを踏まえまして基礎構造の検討を有識者に相談しながら、あるいは文化庁に指導を仰ぎながら決めていきたいというふうに考えているという状況でございます。

森：基本設計にはね出し架構は入っていたのですか？

名古屋城：基本設計の中ではこういった基礎を考えていくかという方針を固めるところまでなので、この方法で、あるいは他の方法はどうかというのは書かれていません。今現在、実施設計をやっております。実施設計の中ではそういったところをまあ詳細に詰めないといけないという事でその部分については実施設計の業務として中にいれておりません。

森：他の方法と仰ったけど跳ね出し工法以外の他の方法とは何ですか？

名古屋城：具体的にですね、あの決まっただけはない

森：ないんでしょう？

名古屋城：ないので

森：何故公開しないのか、そういう資料を

名古屋城：それは、検討中の資料なので。それは出すことは

森：基本設計は完成したんですね。

名古屋城：完成しております。

森：完成しているのに基本設計を示せないというのは…。

林：まずご指名していないので。すみません。

それで、あのですね、えっともうお時間がどんどん近づいて、終了の時間が近づいてきてしまったんですけれども、あの少しを延長させて頂きたいので、最後のお一人だけですね、なにかご質問がありましたら、この会場で初めてだよという方がいらっしゃればお願いしたいなあと思いますがいかがでしょうか。いらっしゃらない。

では、時間内に終われそうですので、はいここまでとさせて頂きたいと思います。ではですね、多くのご質問を頂きまして本日はありがとうございました。

閉会の時間が参りましたので、最後に河村市長より一言ご挨拶をお願いします。

河村：はいそれではありがとうございました。

まあコロナ禍の中是非お帰りは気付けて頂いて。

文化庁の方からとにかく国宝1号であった名古屋城、あとコンクリートのお城は沢山あってそれは老朽化というのは大きな問題なんです。ナンバーワンの最大の国宝1号であった名古屋城になったということだもんで、まあ丁寧な上に丁寧に願いますよというふうに言われております。まあそういうことにしたがってやっていきます。

まあとにかく世紀の大建設ですから、これは。あの法隆寺以降の、木造建築物では最高の建築物だということをおある学者さんが言っておられた。今この世に生きとる私たち名古屋の人間がどうするかっていう大変重いというか重要なミッションを1000年後の子どもさん達にいただいております、そういった気持ちでおるわけでして、何分にも精いっぱいやっていきますので、宜しくお願い致します。

そんなことで今日はどうもありがとうございました。thank you very much.

林：以上を持ちまして名古屋城木造天守閣復元市民向け説明会を終了致します。それで、先

程ご案内しましたように、混雑を避けるためにですね、退場のことをご案内しますので、指示に従ってください。その間にですね、座席カード、アンケート用紙など記載頂ければと思います。それは出口で回収致します。また、感想、ご質問がある場合には、アンケート用紙にご記入下さい。

森：アンケートの質疑を公開してください。そして、前回の保存活用計画のパブリックコメントを再公開してください。隠ぺいをしないで下さい。

林：ではみなさまお忘れ物ないようよろしくお願いいたします。